

医療費67・68歳一気に3割負担 自公民の社会保障費削減で「垣老」後退

大垣市議会3月議会は、平成26年度予算案等を可決し19日閉会しました。3月議会の争点の一つは、国の70歳以上の医療費窓口負担を一律2割負担にするという国の医療改悪に伴い、大垣の「垣老」制度が拡充できるかどうかでした。「条例改正」案では垣老の対象を69歳から72歳までとする一方、67・68歳は「垣老」から外すというものでした。そのため、67・68歳は医療費負担が一気に1割から3割への引き上げられます。私は、今年4月からの消費税8%への引き上げと重なり、せめて3割負担を2割負担に軽減するなど提案しましたが、賛成多数で可決しました。

大垣市議会議員 笹田トヨ子

「垣老」はこうなります

「垣老」の対象年齢は69歳から72歳までとして、医療費窓口負担は1割になります。

67・68歳は「垣老」の対象から外し、医療費窓口負担が3割になります。

但し、経過措置として今年68歳になる方は今まで通り1割負担です。

私は、「なぜ67・68歳を「垣老」制度から外したのか」また「国は70～74歳まで2割負担にするとしているが、条例では72歳までしか出されておらず、その後はどうなるのか」と2点伺いました。

答弁は「「垣老」をいかに維持するかを検討した」ということで、軸足を70歳代に置いたということです。また、72歳までなのは「今後、医療費が膨張することが予想され、国の制度改正などの動向や市の財政状況、経済情勢など不透明なため」ということで、3年後にまた垣老制度の見直しを行うというものです。

67～74歳1割助成案を提案

今年67歳になる方は、昭和22年生まれで団塊の世代の始まりです。この世代から65歳まで無年金状態となり働かざるえない状態であり、また年金給付額も引き下げられるなど、社会保障改悪の影響をものすごく受けてきた世代です。

67歳から垣老の1割助成をすれば財政負担がどうか試算しました。当面の3年間は、今までと同じ財政負担(3億～4億円)で対応できるが、団塊の世代が70歳代に入ってくると医療費負担も倍加するというものです。但し、67・68歳を垣老から外しても、財政負担は大きく変わりません。ピークは平成32・33・34年頃で、それを過ぎれば少しずつ楽になると思います。新たに3～4億円の財源をどうするかという課題はありますが、捻出できない金額では無いと思います。

今年もイベントに1～2億円、新庁舎の積立金に7億円と予算化されています。大垣市の予算を何を重視して使うか、市民的議論と合意形成が必要です。

笹田トヨ子反対討論

国はこの4月より70歳から74歳の医療費窓口負担を1割から2割に引き上げることを決めています。そのため多くの市民の方から大垣市の老人医療費助成金制度を70歳から74歳にも対象にして欲しいという要望が出されておりました。今回の条例改正案は70歳以上の年齢に対して「垣老」の対象にしたことは大いに評価出来るものです。しかし、一方で67・68歳を「垣老」の対象から外した点については納得出来ません。

67・68歳を「垣老」の対象から外すことは、医療費窓口負担が1割だったものが3倍となり医療抑制を招くこととなります。結果的には重症化を招き医療費を増やすことになってしまいます。今まで通り67歳から垣老の対象にしても、ここ3年間はそれほどおきな財政負担にはならないと思います。

問題になってくるのは、今年67歳になる団塊の世代が70歳代に入っていく3年後からです。それ以降は「垣老」の予算も倍加するでしょうが、ピークが過ぎれば、負担額も少なくなっていくと思います。仮に67・68歳を削ったとしても、その問題は変わりません。私たちに問われているのは団塊の世代の70歳代の時期をしっかりと支える覚悟があるかどうかです。

垣老制度は「大垣の宝」と言われ、67歳からは安心して医療に掛かれる他市にない制度です。長年、国の医療改悪の影響をものすごく受けて、垣老制度も対象年齢が引き上げられてきました。もうこれ以上の年齢引き上げには反対します